

# 成瀬ダム事業に関する、知事候補者に対する公開質問状

2009年3月9日

秋田県知事選挙立候補予定者

様

成瀬ダムをストップさせる会一同

連絡先（質問状返送先）

事務局 横手市十文字町下佐吉開 28

熊沢 文男 Tel 0182-42-2311

秋田県民の生活の向上と安定のため、日夜ご奮闘なされていることに対し、心からの敬意を表します。

さて、私たちは、来る知事選挙に当たり、成瀬ダム問題が秋田県の今後の進路にとって選択すべき重要な問題になっているとの認識から、これに関する質問を、今日現在立候補の表明をしておられる全ての候補者に公開にて行なうことを決定しました。

つきましては、次ページの質問にご回答くださり、3月14日までにご返送くださいますようお願いいたします。

## 質問の主旨

東成瀬村に建設が進められている成瀬ダムは、平成12年9月議会による議決を経て、平成13年5月29日の国土交通省告示第887号により正式に建設が追認されました。総事業費は1530億円、秋田県の負担は260億円といわれています。現在は、付替え道路の建設などが進められ、本体工事は数年後の開始となる見通しです。私たちは、ダムの計画当初からこのダムの必要性は低く貴重な自然を破壊するものであるとして問題にしてきましたが、ダムの本体工事に先立つ関連の事業を見るにつけ、あるいは情勢の変化を考慮するにつけ、この成瀬ダム事業が一刻も早く停止させられるべきものとの観点から運動をしています。

おりしも、経済情勢が極めて厳しいもとで、次の知事を決める選挙が近づいてきました。私たちは、この成瀬ダム事業の今後について、県民みんなが考えていかなければならない問題だと思っています。どうぞ、真摯なご回答をしていただき、知事選に当たり、県民にひとつの判断材料を提供していただきますようお願いいたします。

（参考として、新聞記事を同封しました）

秋田県知事選挙立候補予定者

様

質問1 成瀬ダムの今後について次の選択肢の中から、公約として掲げるとき、最も近いものをお選びください。

- ① 成瀬ダム事業の必要性は変わっていないので、事業を継続して進める。
- ② 成瀬ダム事業の必要性は低いので、中止の方向で対応する。
- ③ 成瀬ダム事業については疑問があるので、見直しの方向で対応する。
- ④ 成瀬ダム事業については疑問の声が出てきているので、再検討の場を設ける。
- ⑤ わからない。

質問2 成瀬ダム事業に関して付け加えるようなお考えがありましたら、ご自由にお書きください。

ご回答ありがとうございました。

# 成瀬ダム 再考のとき

## 構想40年、1530億円かけ建設中

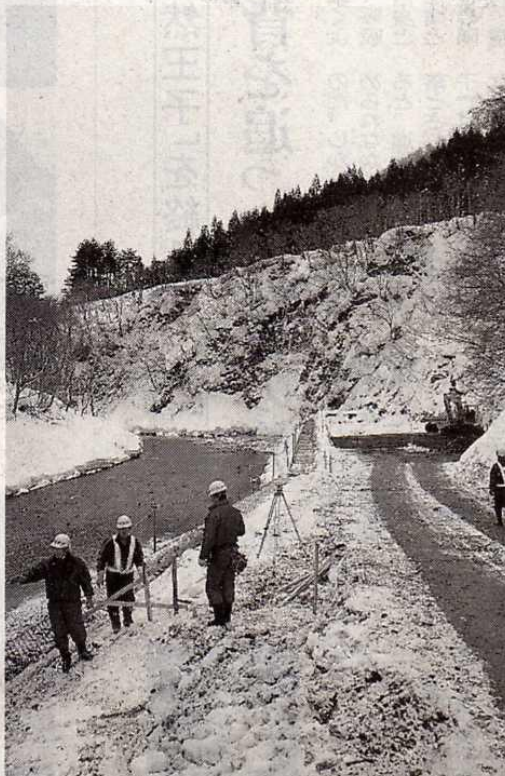
国が東成瀬村に建設中の成瀬ダムは、総事業費が1530億円と見込まれる。干ばつに悩む成瀬川下流域でダム構想が生まれて約40年。いま、成瀬ダムは本当に必要なのか。  
(川島幹之)

### 住民「用水足りてる」

### 行政 必要性を強調

国道342号を栗駒山方面へ向かうと、同村椿川の二郷橋手前で冬期通行止めになる。その先で現在、川の流れを変えるトンネル建設のための進入道路工事が続けられている。ダム本体の着工はまだ

だが、国道付け替えなどは8年前から着実に進んでいる。73年、地元で成瀬ダム期成同盟が出来、県の予備調査が始まった。91年に国の直轄事業となり、01年にダムの基本計画を国交省が告示、建設工



成瀬川河岸で続く進入路工事＝東成瀬村椿川

事が始まった。農業用水の確保が主目的の多目的ダムだ。ダム建設を前提に、横手市や湯沢市、大仙市など下流域の約1万戸、約8千戸を対象にした国のかんがい排水事業(総事業費約320億円)が01年にスタート。新しい皆瀬頭首工から取水する同事業とダムが完成すると、現在の約2倍の毎秒30㍓の農業用水供給が可能になると、国側は説明する。

### ■減反で需要減

しかし横手市民らでつくる「成瀬ダムをストップさせる会」は、「農業用水は現状で

成瀬ダム ロックフィル式の多目的ダム。高さ113.5㍓、長さ690㍓、ダム湖面積2.26平方㍓、総貯水容量787.0万立方㍓、総事業費1530億円。仙北市田沢湖町の玉

川ダム(90年に完成当時、東北では最大とされた重量式コンクリートダム)と比べると、高さは約1.1倍、長さ約1.6倍、ダム湖面積は約4分の1、総貯水容量は約3分の1、総事業費は約1.3倍。

足りている」と主張する。奥州光吉代表は稲作農家だ。同会の試算によると、60年代に9450㍓あった平鹿平野の水稲作付面積は、減反などで08年には5618㍓と約3分の2まで減った。このため農業用水の需要は減っていて、最高でも現在の毎秒18㍓で足りているという。また80年に皆瀬ダム関連の農業用水路が完成後は、目立った干ばつ被害はないという。

水不足は恒常化し、上流で水を使われ、下流はいつも不足する。地下水に頼るところも多い」と説明する。同改良区では08年度も約800戸に計1500万円の揚水ポンプ電気代を助成している。

筋土地改良区などは「夏季の干ばつ被害はないという。これに対し農水省や雄物川

最下流部の横手市大雄地区の米作農家の男性(81)は「頭首工から下流へ直接つながる用水路ができる」と歓迎する一方で、同地区の農業男性(62)は「水不足は兼業農家が増え、水の管理がずさんになったのも原因。用水を再



用するなど管理をうまくやば、ダムはいらないのではいか」と話す。

### ■「遅れた発想」

治水などダムの他の目的について同会は、①堤防整備で水の危険は減った②ダムの流域では川の水が濁り、生態系が守られるか心配③ダム周辺は白神山地と同じ森林生態系保護地域で、自然破壊の恐れがある、などと指摘す

国交省湯沢事務所ではこれに対し①洪水調整は河川だけでは駄目。ダムや遊水池など総合的な計画が必要②成瀬ダムには選択取水設備を設け、濁った水は流さない③環境影響評価(アセスメント)で大きな影響はないとされた、な

こと反論している。  
ダムの総事業費1530億のうち、県は約260億円(単純計算すれば、県民1人あたり約2万2千円)を負担する予定だ。県河川砂防課では「地元の要望もあってダム建設が始まった」とし、佐々木哲男東成瀬村村長も「流域住民が必要だと思つて進めた事業」と話しており、あくまでも住民が望んだからダムを

造ると強調している。

巨大なダム計画はいま、転換点にある。熊本県の川辺川ダムや滋賀県の大戸川ダムは昨年、地元や近隣知事の反対で「休止」に追い込まれた。県負担金の支出停止などを求め県監査委員に住民監査請求をしている同会。奥州さんは

「そもそも自然の川をせき止めて何かをするという発想が世界の潮流から遅れている」と話している。

◇ 同会は22日午後1時半から、横手市増田町多目的ホールで「成瀬ダムストップ県南集会」を開く。